

[106]

一、生産及輸出入高

當地製造に係る葯酒は一箱五十瓶入一ケ年約五萬箱を産出す(一瓶二合として計算すれば年額五千石内外なり)而して其約七割は南洋方面に輸出せらる。

老酒の製造高は一萬二百元内外(一升七十二錢五厘として總石數は二百三十七萬石内外となる)

天津及紹興より輸入せらるゝ年額二三萬元とあるも酒名別に記載なきを以て前表平均價格〇・七五〇に依り假に石數を算出するに二百六十七石内外となる。

一、取引方法信用あるものに對する卸賣の外は現金取引なり卸賣は小賣相場に二割引とす酒精度數は營業者の秘密にする所にして一々蒸餾するに非ざれば分明ならず。

一、賜福堂

厦門石皮巷にある葯酒製造家の商號にして各地にて愛用せらるゝ葯酒は其の製造に係るもの多し。

語 源 學 的 細 菌 學 (其の二)

石 崎 株 式 會 社 社 長 敏
酒 造 部 技 師 首 藤

第 五 章 Schizophyta 裂殖部各論

以下に於て Greek=Gr. Latin=L. と略記す。

裂殖部は Schizophyceae 裂殖藻門及び裂殖菌門 Schizomycetes の二門より成る。

Gr. Schizo=cleave, split 分裂

一七

[108]

へられたるものとす。

連鎖球菌なるを以て Streptococcus mesenteroides と記載せらる。(Liesenberg et Zopf.)

蛙卵膠の形成に依りて又「蛙仔菌」(Frog-spawn fungus) と稱せらる。本菌研究の初頭に於ては本菌は念珠藻 (Nostoc) と稱する藻類に關係を有するものと思推せられたれ共其然らざる事を判明するに至れり。Leuconostoc の名亦之に因す。

第二項 Micrococcus 球菌屬

Micro は Gr. Mikros, small 即ち小なるの義にして小なる球菌の意也、球菌の比較的大なるものを Macroccoccus と云ふ、Macro は Gr. Makros, long, large, 即ち大なるの意也 Microscopical (顯微鏡的) Macroscopical (肉眼的) 等の語は此の語源より出でたるもの也。

Micrococcus viscosus Pasteur.

Viscosus は (Latin) Viscum より出でしものにして Birdlime 鳥糞の意也英語の Viscous (粘性ある) も亦此語源より出づ。此菌は Beer 中に繁殖して粘性を與ふるが故に此名あり。

Micrococcus malolacticus Seifert.

(Latin) Malum=apple, (L) lact=milk,

此菌は Malic acid $C_4H_6O_5$ を分解して炭酸ガス及び lactic acid $C_3H_6O_3$ となすに依り此名あり。
 $C_4H_6O_5 = C_3H_6O_3 + CO_2$

Micrococc. saprogenes vini I u. II Kramer

Gr. Sapro=rotten Gr. -genes=be born

Gr. Vinum=wine 葡萄酒の腐敗を生ずる菌 Kramer が變敗葡萄酒中より分離せる菌也。

第三項 Pediococcus

Gr. Pedion=plain 平地。

此種の菌は二方向に分裂して板狀集簇を成す故斯く命名せるもの也。

Pediococcus damnosus Claussen.

L. Damnum=loss 或は L. Damnatu=condemn 此菌は Beer 中に繁殖して其香味を害し Beer の善良なる性質を失はしめ用に適せざるに至らしむ、依而此名を得たるものならむ。

Pediococcus pernicius Claussen.
L. Pernicious=Per, throug 始より終まで + Neco, kill 殺す、=有害の、甚しき害毒ある Beer 中に於て甚しき涵濁を生じ且香味を害し麥酒に對して甚だ有害なる菌也。

Pediococcus cerevisiae Francke.

L. Cerevisia=beer

細菌性涵濁ビール中に發見せらるゝに依る。

Pediococcus acidi lactici Lindner.

L. Acidus=be sour, L. lact=milk,

Malt mash の中にて Lactic acid をつくる菌也

第四項 *Sarcina*

L. *Sarcina*=bundle 捆、包貨

此種屬は空間の三方向に互に直角をなして分裂し従つて八數分裂をなすが故に其形狀恰かも貿易店頭に於ける貨物の包装せるものに酷似す、

Sarcina の名の由來する所實に茲にあり、一に又之れを Octad と稱す、Gr. Okto=eight. October は今は十月を意味すれ共ローマ曆にては八月なりし故斯く云ふ也。

Sarcina aurantiaca Lindner.

L. *Aurantium*=orange

黄色の聚落をつくるに由る。

Sarcina maxima Lindner

L. *Maximus*=L. *Magna* (great) の最上級細胞の形大なるに依りて斯く命名せるもの也。

第二節 *Bacteriaceae* 桿菌科

Gr. *Bakterion*=stick 桿菌と稱する所以也

第一項	<i>Bacterium</i>
第二項	<i>Bacillus</i>

[110]

L. Bacillum=Baculum (=stick) の diminutive, diminutive とは指小辭と譯する語にして假へば Streamlet (小流) は stream の diminutive にして pipette は pipe のそれなるが如し。即ち小さき棒の意也。今便宜上第一項及第二項を區分せずして以下少しく記述を試みむ。

Bacterium aceti Hansen

L. Acetum=Vinegar

醋酸醱酵を行ふ事著甚なる菌にして其最大量は Henneberg 氏の調査に依れば 6.6% に達す。

Bact. Pasteurianum Hansen

Pasteurianum は Pasteur 氏の名を取れるもの也

Bact. Kutzingianum Hansen

Kutzingianum は Kutzing 氏の名を取れる事前の如し斯かるものは其れ等の人に何等の特殊の因縁を有するものなるは想像に難からず。

Bact. oxydans Henneberg

Gr. Oxy=acid L. ans=何々する者
酸をつくる者と云ふ意ならむ。

Bact. Xylinum Brown

Gr. Xylinos=wooden

此菌のつくれる膠狀物質は Cellulose 反應を呈す

Bact. acetigenum Henneberg

L. Acetum=vinegar + L. genus=bear 生する
醋酸を生ずるの意。

Bact. Industrium Henneberg

L. Industria=diligent

然れ共此は恐らく本來の diligent と云ふ意に非ずして Industry 即ち工業に使はるゝ醋酸菌と云ふ位の考にて命名せられたるものならむ

Bact. Acetosum Henneberg

L. Acetum = Vinegar + L. sumo = take

此菌は自らの造りし醋酸を更に酸化して之を消費す、即ち醋酸を消費する菌の意なり。

Bact. ascendens Henneberg

L. Ascendens = to climb

本菌の形成せる皮膜は培養器壁に沿ひて非常に高く攀上し往々 8 c.m. (約二寸六分) 以上に達し顕著なる特徴を爲す。

Termobacterium aceti Zeidler

L. Termo = Boundary 境界

Gr. Terma = end 終極、滅亡

Termo に就いては考慮を費す事数日なりしも憑るべき典籍に乏しく結局名案の浮ぶに至らざりしも要するに Gr. の意味に於て「物を滅亡腐敗せしむる菌」と解釋せざるを得ず。蓋し Termobacterium と稱せらるる者は多く Hansen 氏の所謂麥芽汁バックラリア類に屬するものにして麥芽汁に含まるる事多く麥芽汁をして溷濁せしむるものなれば也又腐敗バックラリアに Bacterium termo Cohn と云ふものあり、彼是之を綜合すれば Termo を腐敗の意に解する事敢て大過なき所ならむ乎。

Bact. curvum Henneberg

L. Curvo = bent 屈曲

本種は速醋酸製造上重要な菌にして細胞は圓形に近く或は卵形又は兩端圓形なる桿狀若しくは兩端の尖れる桿狀を呈し多少屈曲せる形狀を呈するに依りて curvum の名あり。

Bact. Orléanense Henneberg

Orléans = city in France

オルレアンの固有名詞を採れるもの、恐らくは同地にて發見せられたるものならむ。

Bact. Xylinoides Henneberg

Gr. Xylinos = wooden, L. Oides = form

「木に似たる」の意。即ち前述の Xylinum と同様に Cellulose 反應を呈するを以て也。

Bact. rancens Beijerinck

(三)

[112]

L. Rancens=rancid 悪臭ある、悪味の
Beer 中に繁殖して香味を害するが故ならむ。

Bact. vini acetati Henneberg

L. Vinum=Wine, L. Acetum=Vinegar

葡萄酒中に於て醋酸を生成する菌也。Vini の名を有するものは何れも葡萄酒に關係を有す。

Termobact. lutescens Lindner

L. Lutum=mud escens=形容詞或は名詞語尾。即ち「泥狀に溷濁せる」の意
此菌は Beer を溷濁せしめ且おらんだみつばの如き臭氣を帶ばしむ。

Termobact. erythrinum Lindner

Gr. Erythros=red 赤色

培養液中にて赤色の色素をつくる。(エリスロデキストリンも亦試薬に依りて赤色となるを以てエリスロの名を冠せられたる也)。

Termobact. album Lindner

L. Albus=white

本種の聚落及び沈渣は白色を呈す。(Albumen も亦 albus より出づ、即ち卵の白味を云へる也)

Termobact. furcescens Lindner

L. Fuscus=dark brown, + escens

膠質培地上に白色の色素を生成す。

Termobact. iridescens Lindner

iridescens=虹色 (虹色、眞珠色、羽毛、氷上に浮べる油の薄層の色等の如きものにして近來稍々流行せる玉虫織と稱する見方に依りて色を異にする織物の色の如きは iridescens なり)

肉汁膠質培地上に於ける聚落は魚鱗様の青色虹彩を有するに依る。

Bact. vermiciforme Marshal Ward

L. Vermis=worm, 蛆 L. Forma=form

蛆の如き形せる菌の意。

Marshal Ward 氏の描ける生姜酒の配塊即ち Ginger-beer plant の圖を一瞥すれば釋然たるものあるべし。本菌は右の配塊の主成分を成す。

[Bact. termo Cohn.]

之れは既に述べたる所なり、Hauser 氏に據れば Cohn 氏の Bact. termo は次の三種に分別すべきものなりと云ふ。

(1) Proteus vulgaris Hauser

Gr. Proteus, プロテウスは豫言の能力を有せる神にして其の豫言を聽かむとして行くものあらば種々に形相を變じて豫言するを避けむと遂に逃るべからざるに至りし時は又元の形に復して始めて豫言をなせりと云ふ。之れより變じ易き人又は物を Proteus と云ふに至れり。本菌に於ける名は運動性あるに依りて其位置を變する事及び物質を惡變せしむる事の二點より解釋するを得べし。

L. Vulgaris=vulgar=coarse 大なる

即ち長大なる者の意にして Bact. termo の中に於て最も大なるに依る。

(2) Proteus mirabilis Hauser

L. Mirabilis=wonderful

幅 0.6 ミクロンを有する桿菌にして其長さは時に幅に等しく時には 2—4 ミクロンに達す、屢々直径 3.7—7.0 ミクロンに達する梨子形の老廢體を生ず。之れ Hauser 氏をして wonderful と命名せしめたる所以ならむ。

(3) Proteus Zenkeri Hauser

Zenkeri は Zenker と云ふ人の名を採りしものなるべし

Bacterium coli commun Escherich

Gr. Kolon=Large intestine 大腸

L. Commune=common 即ち普通大腸菌

本種は人體及び他の高等動物の大腸に常存する桿菌なり。

Bacillus acidificans longissimus Lafar

L. Acidus=be sour L. -ficuss=make

[113]

[114]

L. Longissimus=L. Longus=long の最上級

之れは乳酸菌にして即ち酸を造る所の細胞の甚だ長き菌と云ふ意にして其細胞の長さは往々 25 ミクロンに達するもの也。
Leichmann 氏の Bacil. Delbruecki は此菌にして Delbrueck 氏の名を採れるもの也。

Bacil. Lindneri Henneberg

Lindner 氏の名に依る。

Saccharobacillus Pastorianus Van Laer

Gr. Sakchar=sugar

此菌はエチルアルコールを生成す、故に砂糖を醋酸すると云ふ意にて Saccharo を冠せるもの也。
Sacch Bacil. Pastorianus var. Berolinensis (Henneberg)

Var.=Variety の略。變種

此れは前記の菌の變種にして Berlin の醸造試験所にて白麥酒工場に供給して好果を得つゝある乳酸菌也。Berlinensis は Berlin の轉訛也。

Bacill. fasciformis Schönfeld et Rommel

L. Fascis=Bundle L. Foma=form

本菌を濕室にて懸滴培養を行へば著しく屈曲せる隔壁を有する糸状となるも數日後に於ては分裂して2ミクロン位となる。
而して此の短かき細胞は互に並行にならびて Bundle にならむとするの傾向を有するを以て此名あり。

Clostridium butyricum Proznowski

Gr. Klostron=clue of thread 糸玉

孢子形成に際して棍状となり糸玉の如き膨れを生ず。L. Butyrum=butter
即ち酪酸を生成する棍状菌との意

Granulobacter saccharobutyricum Beijerinck

L. Granulum=a small grain 微粒子

澱粉粒は二種の異なる物質より成る即ち粒子の外壁を成せる細胞膜と其内容物たる熱湯に可溶性なる所の物質と細胞膜は不溶にして之れを Starch cellulose と云ひ後者を Granulose と云ふ之れ即ち真正の澱粉也。澱粉粒は微細の粒子なるが故に

Granulose と命名せられたるものにして Granulo bacter の名を有するものは Granulose を含む。而して本種が砂糖を醗酵して生産するものは Butyl alcohol, Butyric acid 等なるに依り此名を興へられたるものにして Bacter は Gr. Bakterion より來れる事一目瞭然たり。

Granulobacter polymyxa Beijerinck

Gr. Poly=many Gr. Myxa=nostril 鼻孔

本種は空氣の充分なる流通の下に最も善く發育する運動性桿菌にして Butyl alcohol を生成す、即ち多くの鼻孔を以て多量の空氣を呼吸する菌との意乎。

Bacillus lupuliperda Behrens

L. Lupulus=hop plant ホップ

L. Perdo=destroy

此菌は Behrens 氏が自熱を發せる忽布中より發見せるものなるが故に Hop を破壊無効にする所の菌と云ふ意也。

Bacillus viscosus Bruxellensis van Laer

Fr. Bruxelles=Brussels.

白耳義の首府ブラッセル市。粘液菌にして同市にて發見せられたるものならむ。

Bacill. Fitzianus Buchner

Fitz 氏が乾草の冷浸液中にて發見した後 Buchner 氏が詳細研究せる酒精菌 (グリセリンより酒精を生成す) なるを以て Fitz 氏の名を用ゐたり。

Bacillus ethaceticus Frankland

Gr. Aitho=burn (Ethyl の語源、即ち ethyl alcohol は燃ゆるアルコホルの意也。

Gr. Acetum=Vinegar

即ち本菌はエチルアルコホル及び醋酸を生成す。

Bacil. pneumonia Friedlander

Gr. Pneumonia=Lung 肺

肺炎菌として報告せられたるものなり。

[611]

Bacil. piluliformans Muller - Thurgan

L. Pilula = pilular mass 丸藥

L. Forma = form 形

赤葡萄酒中に於て特殊の病害即ち瓶の底部に近き周壁に穀粒狀の沈渣を附着せしむるもの也。即ち丸藥狀の菌と云ふ意也

Oenobacillus abbae Forti

Gr. Oinos = wine Gr. Abbas = abbey

伊太利葡萄酒の變敗したるものの中に於て發見せられたり、abbae は何か寺院に關係を有したりしに依れるならむ乎

Bacil. subtilis Ehrenberg

L. Subtilis = Sub, beneath + tela, hidden

百度の熱にて三時間百五度の熱にて十五分以上を経ざれば死滅せざる耐熱性胞子を生ずるものなれば「下に隠れ居る菌」と云ふ意。即ち普通の殺菌法にて容易に死せざる故奈邊かに隠れ居るかの如き觀あるを以て也。

Bacil. mesentericus vulgatus Flugge

Gr. Mesenterion = 腸間膜、隔膜

L. Vulgatus = coarse 粗大なる

Mesentericus は馬鈴薯菌として知られたるものにして馬鈴薯の截面上に隔膜の如き被覆狀の聚落を生ず。本種は肥大の桿菌なるが故に Vulgatus と附加せられたるもの也。

Bacil. mesentericus fuscus Flugge

L. Fuscus = fuscons 灰褐色の

馬鈴薯上の聚落は初め黄色にして後褐色に變ず。

Bacil. mesentericus ruber Globig

L. Rubeo = red ルビー紅色

馬鈴薯上の聚落は初め黄赤色にして紅薔薇紅色となる。

L. Spira = coil 螺旋、蛇管、どぐろ卷

第三節 Spirillaceae 螺旋菌科

第一項 Microspira こんま菌屬

Gr. Mikros=small L. Spira=coil

第二項 Spirillum 螺旋菌屬

別に説明を要せざるべし。

第三項 Spirochaete 長螺旋菌屬

L. Spiro=coil, + Gr. chaite=bristle 剛毛

第四節 Chlamydo bacteriaceae 鞘菌科

Gr. Chlamyd=mantle 外膜、外套
鞘を有する菌也

第一項 Leptothrix 線菌屬

Gr. Leptos=small Gr. Thrix=hair

細き毛の意。

Leptothrix ochracea Kützing

第二項 Crenothrix

Gr. Ochros=pale yellow

Gr. Krene=spring 泉

之れは水道管、泉等の中に繁殖するものなるが故に「泉の中の毛の如き菌」と云ふ意也。

Crenothrix Kuhniana Rabenhorst

此菌は最初 Cohn 氏が Crenothrix polyspora と命名せしものにして (Gr. Poly=many Gr. Spora=seed 即ち spore を多産する菌) 後に至りて表題の如く改められたるものなり、Kuhniana は惟ふに Cohn を轉訛せしめたるものならむ。

第三項 Cladothrix 叉生菌屬

Gr. Klados=branch

此菌屬は Branch を有す。

Cladothrix dichotoma Cohn

[117]

Gr. Dichotomos=Gr. Dicha, in two + Gr. temno, Cut=二つに岐れる
此菌は其の假性分岐に故りて二つに岐れ居れり。

Thiobacteria 硫黄細菌属

Gr. Theion=sulfur 細胞内に硫黄を有する菌

第五節 Beggiatoaceae 硫黄細菌科

Beggiato 伊太利の植物學者の名

第一項 Beggiatoa 属

Beggiatoa alba Trevisan

Gr. Alba=white 聚落は白色或は灰白色也。

第二項 Thiothrix 硫黄線菌属

説明を要せざらむ。

第六節 Rhodobacteriaceae 紅色細菌科

Gr. Rhodon=rose 薔薇紅色

第一項 Chromatium 属

Gr. Chroma=colour 色

(Bacteria の項終り)

附 記

學名の第二名を命ずる人の名を用ゐたる時の語尾は概ね次の如し。

(1) -ianum

Pasteurianum (Bacterium——)

Kutzingianum (Bacterium——)

(2) -ianus

Fitzianus (Bacillus——)

Priorianus (Zygosaccharomyces——)

(3) —iana

Kahniana (Crenothrix—)

Fuckeliana (Sclerotinia—)

(4) —i (或は —ii)

Delbrucki (Bacillus—)

Beijerincki (Bacillus—)

Ludwigii (Saccharomyces—)

Rouxii (Mucor—)

斯くの如く種々の語尾を取れるは文法的用法に依る所尠しとせざらむも亦語調の關係より來れるもの多きが如し即ち學名の第一名が Bacterium 或は Saccharomyces 等の如く長き語なるときは第二名も亦之に呼應して長くする必要あるに依り (1) (2) (3) 等の如き語尾を取り第一名が Bacillus, Pichia 等の如く短き語なる時は (4) の如き語尾を取る。 (1) (2) (3) は要するに同一の語尾なれ共第一名の語尾に照應すべく用ゐる場合を異にするのみなり、假へば

Bacterium Pasteurianum

Saccharomyces Pasteuriannus

Saccharobacillus Pasteuriannus

Sclerotinia Fuckeliana

に就て之れを見るべし。

又第二名に地名を用ゐたる時は其語尾は凡次の如し

(1) —ensis

Saccharomyces Carlsbergensis

Aspergillus Luchuensis

(2) —ica

Monilia Javanica

Willia Belgica

(3) —icum

Penicillium Italicum

(4) —icus

體 說 菌類の學問(其の11)

[611]

[120]

(5) 語尾變化無きもの

Mucor javanicus
Saccharomembranaefaciens var. *Californicus*
Mucor Cambodja

以上説示したるものは要するに前項人名の場合に於けると同じく第一名の語尾に照應せむとする所の傾向を看取するを得べし。

又固有名詞以外に於て數詞に關係あるもの少からざるを以て今其の概要を記述し置くも蓋し無用の業に非ざるべきを信ず従つて今後の講述に當り數詞に關する部分は或は之を省略する事あるべし。

1. の意。 Mono, Uni,
Gr. Monos=單一
L. Unus=one
2. の意。 Di-, Bi-,
Gr. Di は Dyo=two より來る。
L. Bi は Bis=twice より來る。
3. の意。 Tri-, Ter-,
Gr. Tri は treis=three より來る。
L. Ter=thrice
4. の意。 Tetra-, tetr-,
Quadr-, Quadr-,
Gr. Tettares=four より來る。
L. Quattuor=four より來る。
5. の意。 Penta-, Pent-,
Cinque-, Quinque-,
Gr. Pente=five より來る。
L. Quinque=five より來る。
6. の意。 Hexa-, Hex-,
Sex-,

[121]

Gr. Hex = six

L. Sex = six

7. の意。 Hepta—, Hept—,

Sept—, Septa—,

Gr. Hepta = seven

L. Septum = seven

8. の意。 Oct—, Octa—,

Gr. Octo = L. Octo = eight

9. の意。 Ennea—, Novem, Non—,

Gr. Ennea = nine (結合形)

L. Novem = nine = L. Nonus = nine

10. の意。 Dec—, Deca—,

Gr. Dekā = ten

L. Decimus = ten

11. の意。 Hendeca—,

Gr. Hendeka = eleven

12. の意。 Dodeca—,

Gr. Dodeka = twelve

